

## イネカメムシに対するジノテフラン剤の剤型による斑点米低減効果の比較

### [要約]

ジノテフラン液剤はイネカメムシの発生を抑え、ジノテフラン粒剤やジノテフラン剤（豆つぶ）と比較して斑点米発生率を低くすることができる。

茨城県農業総合センター農業研究所	令和4年度	成果区分	技術情報
------------------	-------	------	------

### 1. 背景・ねらい

近年、イネカメムシは茨城県をはじめ全国的に発生が増加傾向にある。本種によって乳熟期にイネの穂が吸汁加害されると斑点米を生じることから、効果的な防除対策の確立が求められている。そこで、本種に対して登録のあるジノテフラン剤について剤型の違いによる効果を比較し、斑点米低減効果の高い剤型を明らかにする。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 発生種の主体がイネカメムシである水田において、乳熟期にジノテフラン液剤（商品名：スタークル液剤 10）を散布することでイネカメムシ数を低く抑えることができる（図1）。
- 2) ジノテフラン液剤は、ジノテフラン粒剤（商品名；スタークル粒剤／アルバリン粒剤）及びジノテフラン剤（豆つぶ）（商品名；スタークル豆つぶ）と比較して斑点米混入率は低くなる（図2）。また、ジノテフラン粒剤を同液剤より3日早く処理しても、剤型間の斑点米低減効果の傾向は同様である（データ略）。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本成果は、令和4年に農業研究所水田利用研究室（龍ヶ崎市大徳町）の水田で試験した結果である。
- 2) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、有効成分の作用機構に基づいて分類されたコード（IRACコード）は、ジノテフランは4Aである。
- 3) 試験に使用した農薬は、令和5年3月8日現在、稲のカメムシ類に登録のある薬剤である。

#### 4. 具体的データ

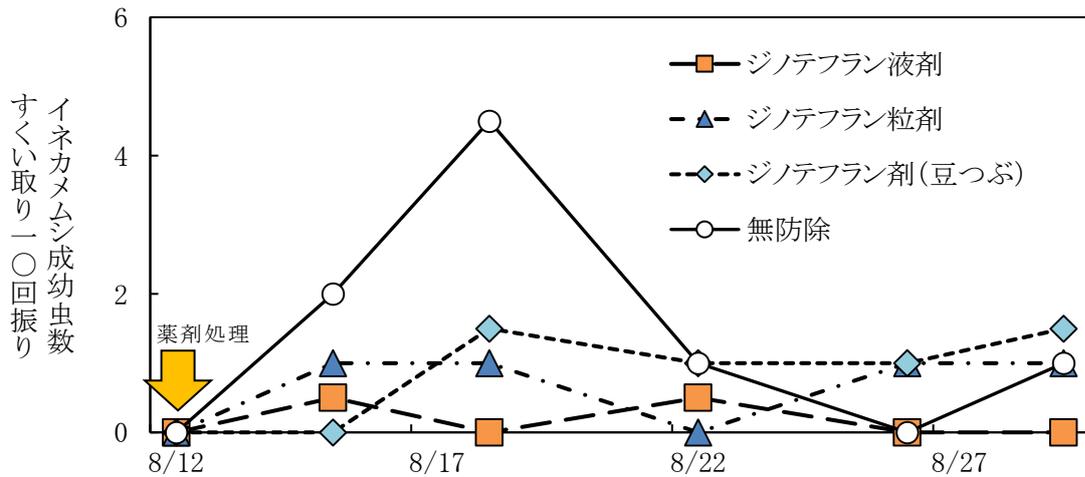


図1 薬剤処理別のイネカメムシの発生推移（令和4年）

- 1) 試験場所：水田利用研究室内水田（龍ヶ崎市大徳町）、品種：にじのきらめき
- 2) 移植日：5月19日、出穂期：8月1日 薬剤散布日：8月12日、試験規模：338～569 m<sup>2</sup>/区
- 3) ジノテフラン液剤は1,000倍、100L/10a、ジノテフラン剤（豆つぶ）は250g/10a、ジノテフラン粒剤は3kg/10aを処理した。
- 4) すくい取り調査は、捕虫網（口径36cm、柄長100cm）を用いて、10回振り×2か所の平均値である。すくい取りで捕獲された斑点米カメムシ類はイネカメムシのみであった。

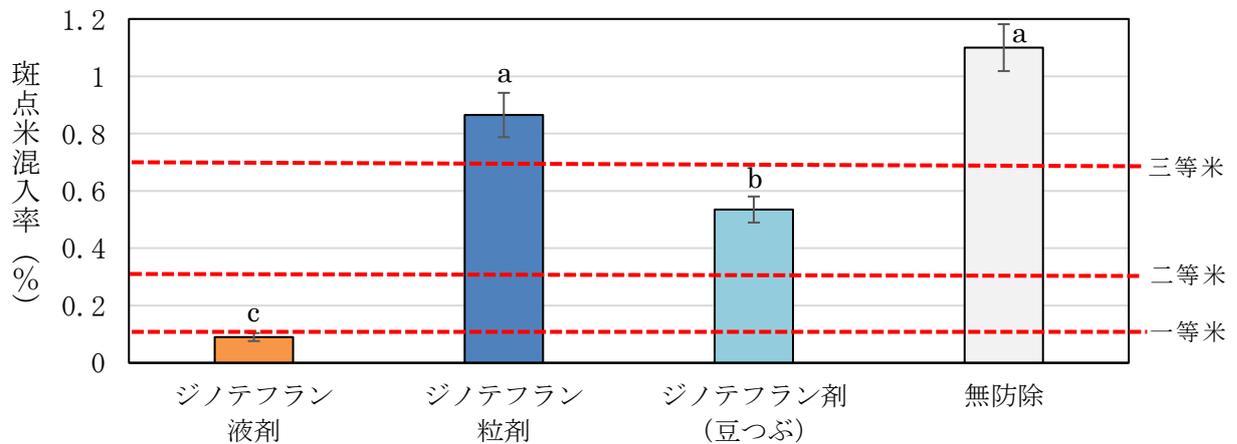


図2 薬剤処理別の斑点米混入率（%）（令和4年）

- 1) 試験場所：水田利用研究室内水田（龍ヶ崎市大徳町）、品種：にじのきらめき
- 2) 移植日：5月19日、出穂期：8月1日 薬剤散布日：8月12日、試験規模：338～569 m<sup>2</sup>/区
- 3) ジノテフラン液剤は1,000倍、100L/10a、ジノテフラン剤（豆つぶ）は250g/10a、ジノテフラン粒剤は3kg/10aを処理した。
- 4) 斑点米混入数の調査は、1.85mmのグレーダーで選別後に各区1,000粒20反復を目視で調査した。
- 5) 赤色点線は農産物検査規格の着色粒の最高限度を示す。一等米は0.1%、二等米は0.3%、三等米は0.7%。
- 6) 異なる英小文字間に有意差あり（Steel-Dwass法、 $p < 0.01$ ）。バーは標準誤差を示す。

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

夏季高温に対応した水稻品種「にじのきらめき」の高品質安定多収栽培方法の確立（県単）・令和3年度～令和5年度・作物研究室、水田利用研究室、病虫害研究室